

ごあいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 伏野 誠

皆さん、こんにちは。ただいま御紹介にあずかりました埼玉県保健医療部副部長の伏野と申します。当初、部長の降田がごあいさつをする予定でしたが、急きょ予定が入りましたので、私が代わってごあいさつをさせていただきます。

本日、第2回埼玉輸血フォーラムがこのように、盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

さて、私の方から改めて言うまでもありませんが、血液事業は献血者の安定的な確保と、輸血用血液製剤の安全かつ適正使用、これが車の両輪にたとえられております。それぞれがそれぞれの機能を十分に発揮することによって成り立つ事業でございます。

本県におきましては、埼玉医科大学総合医療センターの前田平生先生をはじめ、県内の医療従事者の方々と組織される埼玉県合同輸血療法委員会で、安全で適正な輸血について御検討をいただきますことを、非常に心強く思っております。

また、本日のフォーラムでは、この委員会で行われました調査報告、及び特別講演が予定されています。このフォーラムを通じまして、県内の医療従事者の皆様方が、共通の認識を持っていただきたいと考えております。

車の両輪のもう一方であります、献血者の安定確保でございますが、こちらに来る途中、大宮の駅前でも献血の呼びかけをやっておりましてけれども、血液センターの方々の御努力、あるいは市町村や県の方の広報等によりまして、献血者の確保に努めているところでございます。おかげさまで現在のところ、埼玉県の献血者数につきましては、関係される方々のご努力によりまして、ここ

数年、わずかでございますけれども増加している傾向でございます。県内の治療に対応できていると思います。

ちなみに高校生の献血者数につきましては、埼玉県の高校生の人数は東京よりもはるかに少ないのですが、教育委員会の御努力によりまして、3年連続日本一になっております。

先ほどの前田先生のお話にもありましたように、今後は少子高齢化ということになりますと、子どもの数が少なくなって、逆に血液製剤の需要が多くなっていくということでございますので、日赤の本社では、16年後に100万人ほど足りなくなるということを推計しています。

このような中で、県といたしましては、これから献血をしていただく若者をターゲットにいたしまして、卒業するときに記念に献血をしていただく高校生の卒業献血キャンペーン、あるいは若者に人気があります、コバトンなどのゆる玉の応援団の協力をいただいて、「献血ありがとうキャンペーン」など、さまざまな取り組みを展開しているところでございます。引き続き、献血者の確保に努めてまいりたいと思っております。

皆様方におかれましても、献血者の安定確保につきましても、今後御支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

終わりに、本日御参会の皆様にとりまして、この埼玉輸血フォーラムが有意義なものとなりますよう、また、埼玉合同輸血療法委員会のますますの御発展を御祈念申し上げまして、簡単ではございますが、私のあいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。